



2015年3月期 決算説明会

株式会社日本動物高度医療センター

東証マザーズ：6039

2015年5月29日

1	会社概要	P.4
2	2015年3月期 決算ハイライト	P.10
3	2016年3月期 業績見通し	P.14
4	成長戦略	P.16



1. 会社概要

会社名	株式会社日本動物高度医療センター Japan Animal Referral Medical Center: JARMeC
主要な事業内容	犬・猫向けの高度医療を行う二次診療専門動物病院
所在地	川崎本院：〒213-0032 神奈川県川崎市高津区久地2-5-8 名古屋分院：〒468-0003 愛知県名古屋市天白区鴻の巣1-602
代表取締役社長	平尾 秀博
設立年月日	2005年（平成17年）9月26日（川崎本院開業） 2007年（平成19年）6月1日 （名古屋分院開業） 2011年（平成23年）12月1日
資本金	325百万円（資本準備金225百万円）
従業員数	145名（非常勤24名を含む）（2015年4月現在） ※グループ全体
連携病院数	3,023病院（2015年4月30日現在）

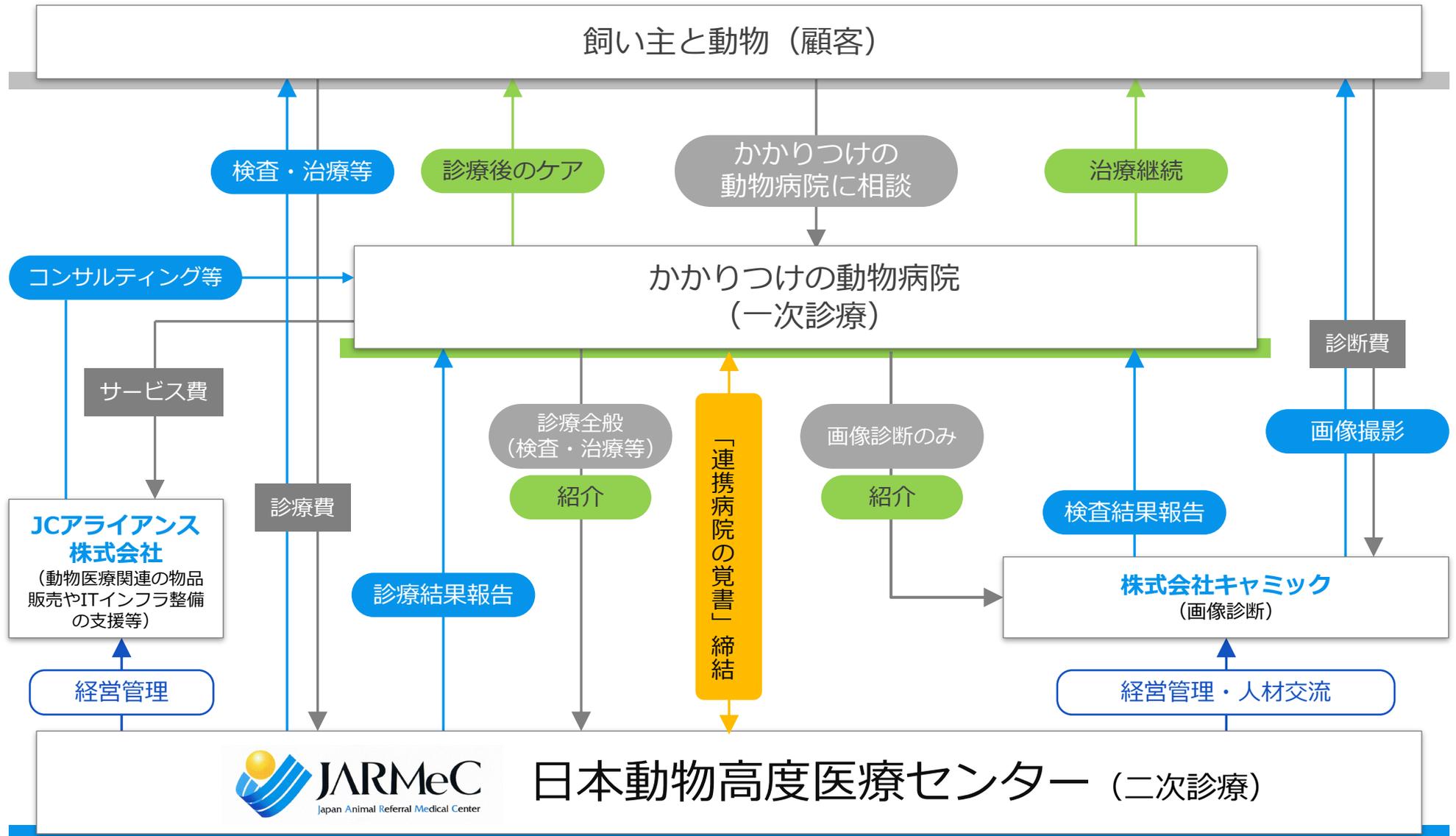
JARMeCは、動物医療界において、

「臨床や教育現場で活躍する人材教育」の環境を整え、

「動物医療技術の向上を担う臨床研究」にチャレンジし、

教育、臨床研究の実践の場所としての
「高度医療（二次診療）」を地域の連携病院と協力して提供する

以上により広く社会に貢献することを理念としています。



- 対人医療と同様の高度な医療機器を備える

検査装置



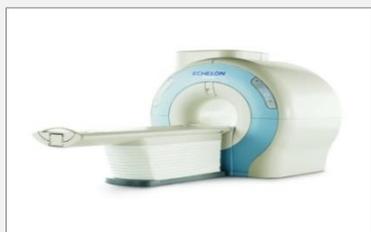
放射線治療装置



PET-CT



高解像度X線検査室



MRI



超音波検査室

手術室



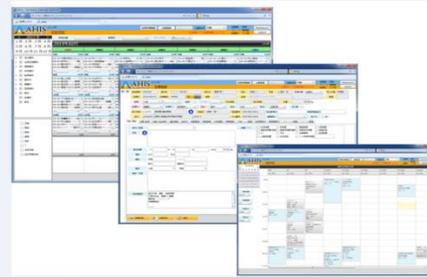
手術室 (全6室)

- 第1
心臓血管外科・脳神経外科
- 第2
腫瘍科
- 第3
眼科
- 第5・第6
多目的
- 第7
歯科口腔外科・内視鏡

電子カルテ・院内画像ネットワーク



画像ネットワーク (FABRICA)



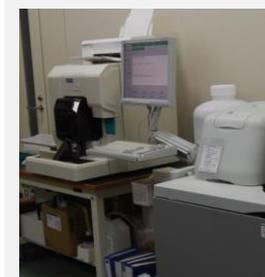
電子カルテ (AHIS)

免疫治療



免疫治療部門室

病理・血液検査センター



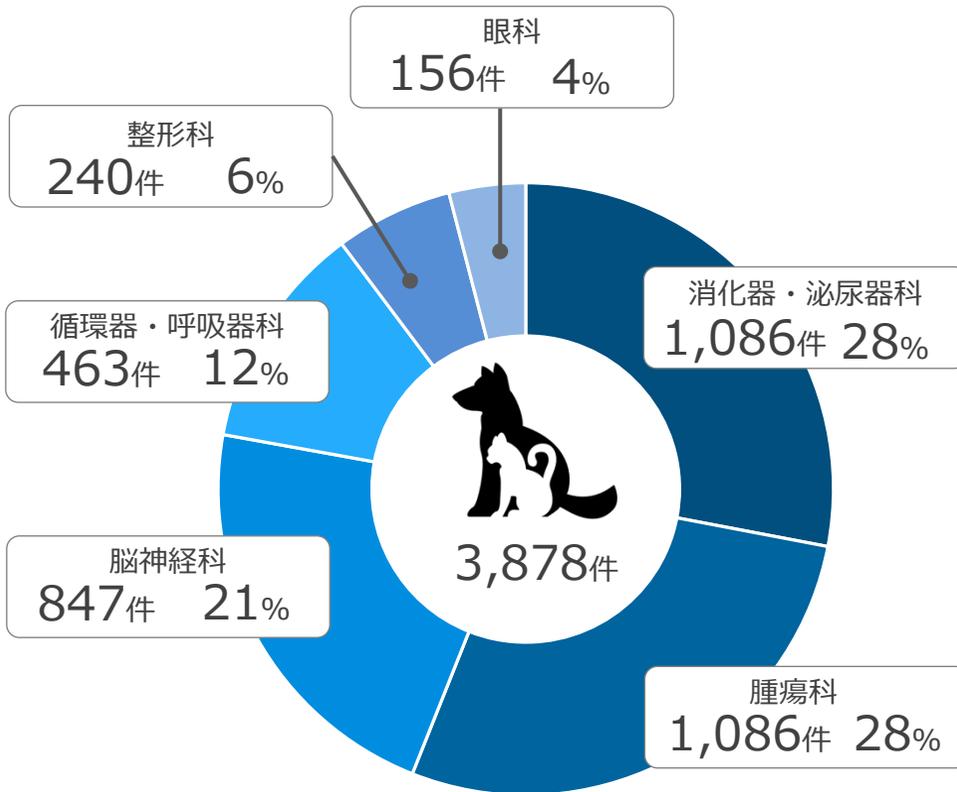
病理検査センター



血液検査センター

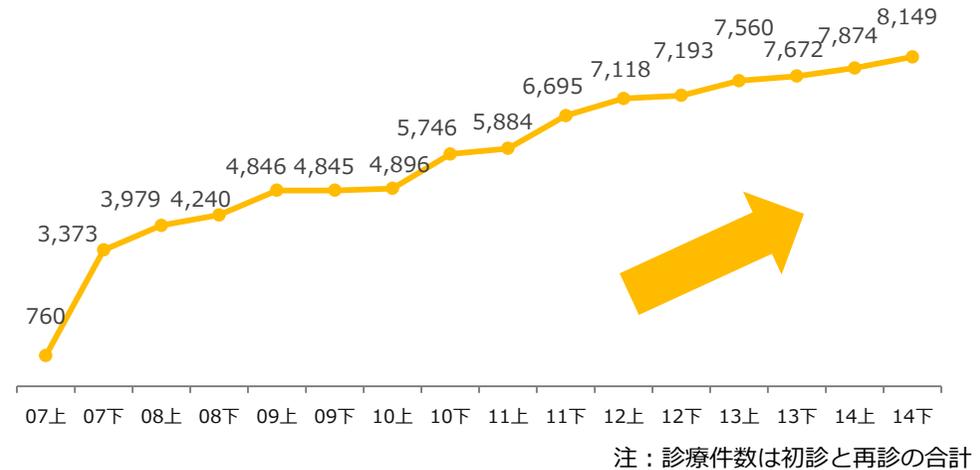
- 対人医療と変わらない多様な症例があり、診療件数・手術件数ともに増加傾向で推移

診療科別症例割合

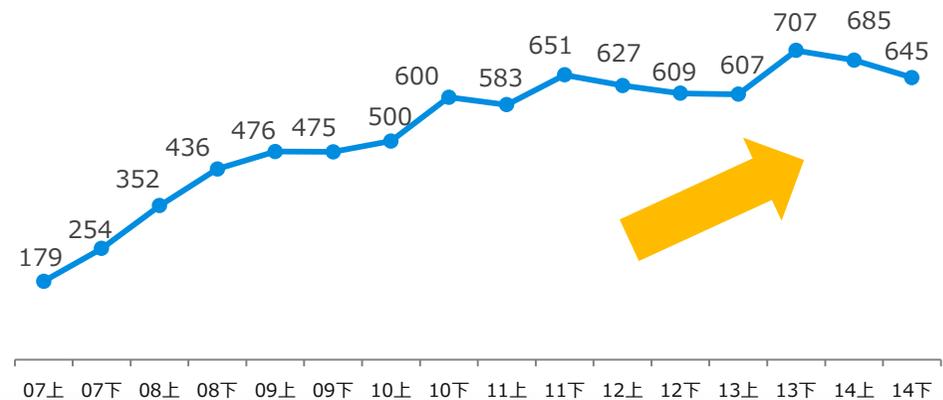


*平成26年4月1日～平成27年3月31日の1年間の診療予約情報(電子カルテ)をもとに作成

診療件数の推移



手術件数の推移

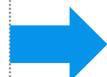


- 臨床研修医スタート後、獣医師を含めた職員数は順調に増加

JARMeC職員数

	2008年 3月	2009年 3月	2010年 3月	2011年 3月	2012年 3月	2013年 3月	2014年 3月	2015年 3月	2015年 4月
獣医師	27	35	40	46	51	56	61	55	62
常勤	18	28	29	32	37	43	45	38	44
(うち研修医)	10	5	8	4	7	11	11	9	16
非常勤	9	7	11	14	14	13	16	17	18
動物看護師	4	19	15	19	25	28	31	31	33
技師他専門職	2	2	2	0	0	0	0	0	0
事務職員等	7	10	10	12	14	19	23	27	26
計	40	66	67	77	90	103	115	113	121

2009年



民間初の『小動物臨床研修施設』を農林水産省から指定

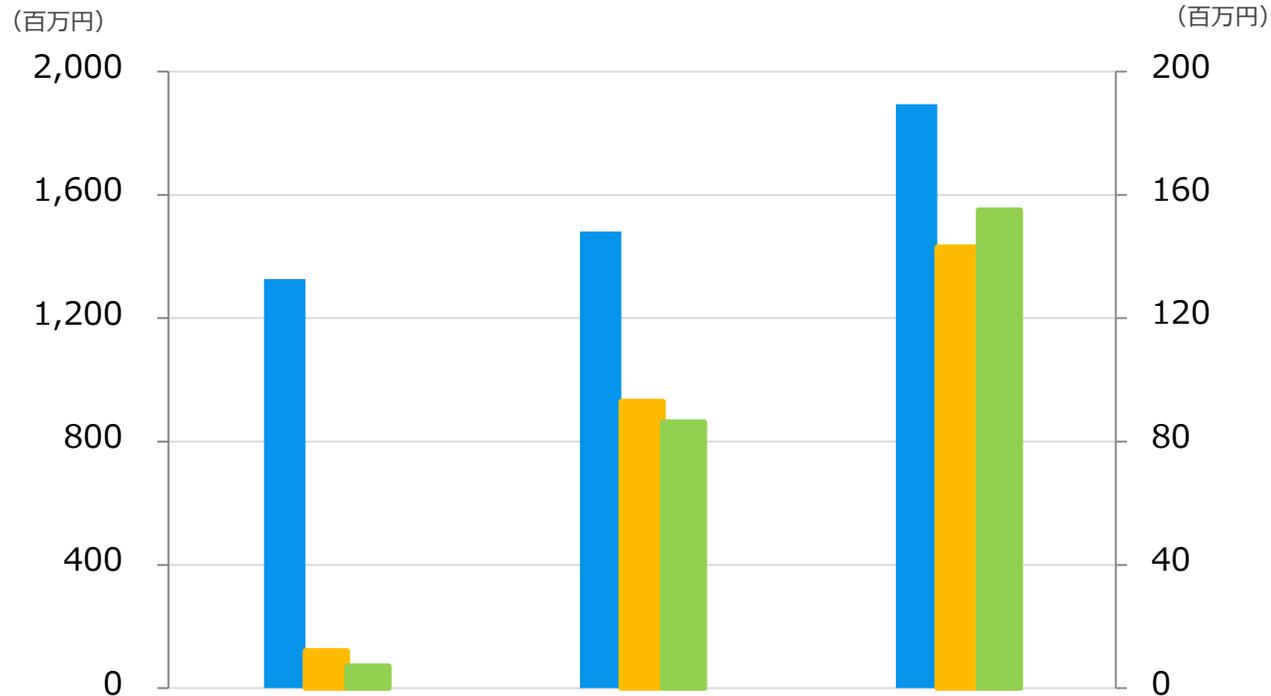
2008年



卒後臨床研修医スタート



2.2015年3月期 決算ハイライト



	第8期 (2013年3月期)	第9期 (2014年3月期)	第10期 (2015年3月期)
■ 売上高	1,327,280千円	1,481,414千円	1,894,043千円
■ 経常利益 (右軸)	12,027千円	92,942千円	143,431千円
■ 当期利益 (右軸)	7,087千円	86,237千円	* 155,546千円

*当期より税効果会計を適用

	2014年3月期末		2015年3月期末			
	金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)	前年期末比 (%)	主な増加/減少要因
流動資産	581,399	18.0	883,686	22.5	152.0	現金及び預金の増加 繰延税金資産の増加
固定資産	2,642,501	82.0	3,038,576	77.5	115.0	土地の増加 建設仮勘定の増加
資産合計	3,223,901	100.0	3,922,262	100.0	121.7	
流動負債	574,551	17.8	1,048,694	26.7	182.5	短期借入金の増加 1年内返済予定の長期借入金の増加
固定負債	2,286,991	70.9	2,217,396	56.5	97.0	リース債務の減少 長期借入金の増加
負債合計	2,861,543	88.8	3,266,091	83.3	114.1	
純資産合計	362,358	11.2	656,171	16.7	181.1	基本金及び資本剰余金の増加 利益剰余金の増加
負債・純資産合計	3,223,901	100.0	3,922,262	100.0	121.7	

(千円)

	2015年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	379,530
投資活動によるキャッシュ・フロー	△577,996
財務活動によるキャッシュ・フロー	474,829
現金及び現金同等物に係る換算差額	—
現金及び現金同等物の増減額	276,363
現金及び現金同等物の期首残高	357,089
現金及び現金同等物の期末残高	633,452

■主な営業活動によるキャッシュ・フロー

- ・税金等調整前当期純利益 135,222千円
- ・減価償却費 224,211千円

■主な投資活動によるキャッシュ・フロー

- ・有形固定資産の取得による支出 577,942千円

■主な財務活動によるキャッシュ・フロー

- ・短期借入れによる収入 210,000千円
- ・長期借入れによる収入 570,000千円
- ・株式の発行 135,842千円
- ・長期借入金の返済による支出 △335,700千円



3.2016年3月期 業績見通し

(千円)

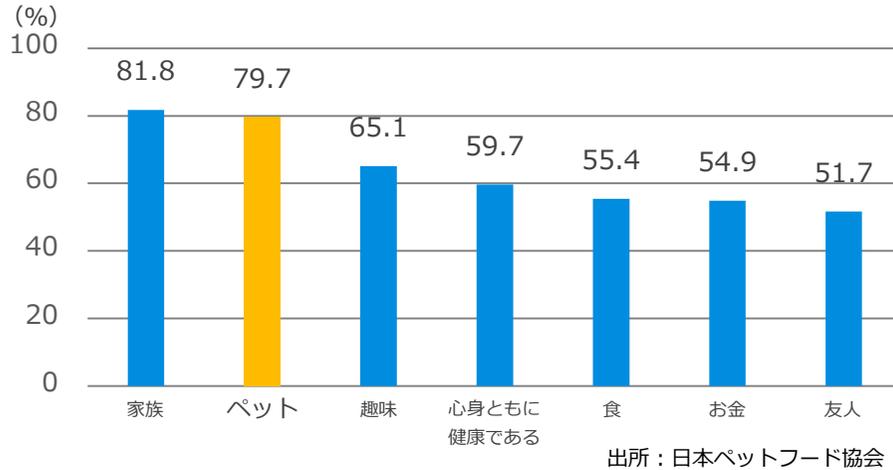
	2015年3月期 (2014/4~2015/3)	2016年3月期 (2015/4~2016/3)	
	実績	予想	前年同期比(%)
売上高	1,894,043	2,060,000	108.8
営業利益	159,965	185,000	115.7
経常利益	143,431	175,000	122.0
親会社株式に帰属する 当期純利益	155,546	160,000	102.9
1株当たり 当期純利益	75.09	69.48	-



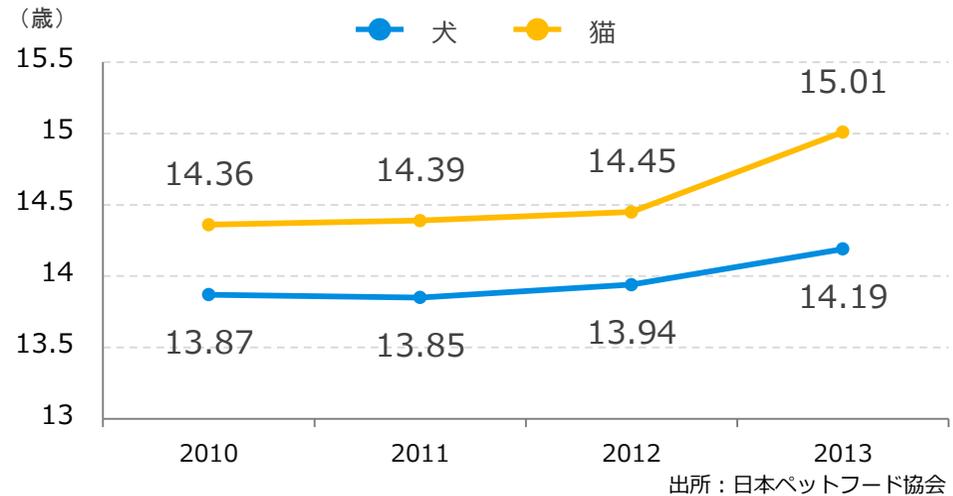
4.市場動向と成長戦略

- ペットは家族と変わらない存在であり、診療等にかかる費用は増加傾向

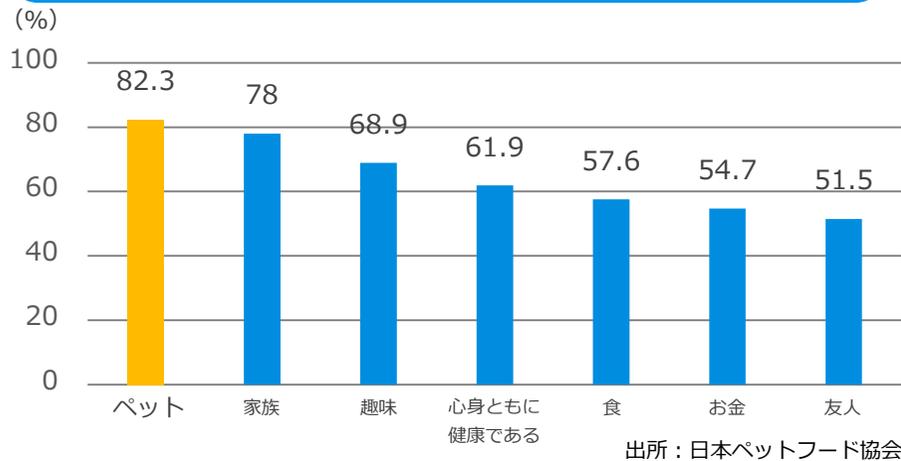
生活に喜びを与えるもの 犬飼育者



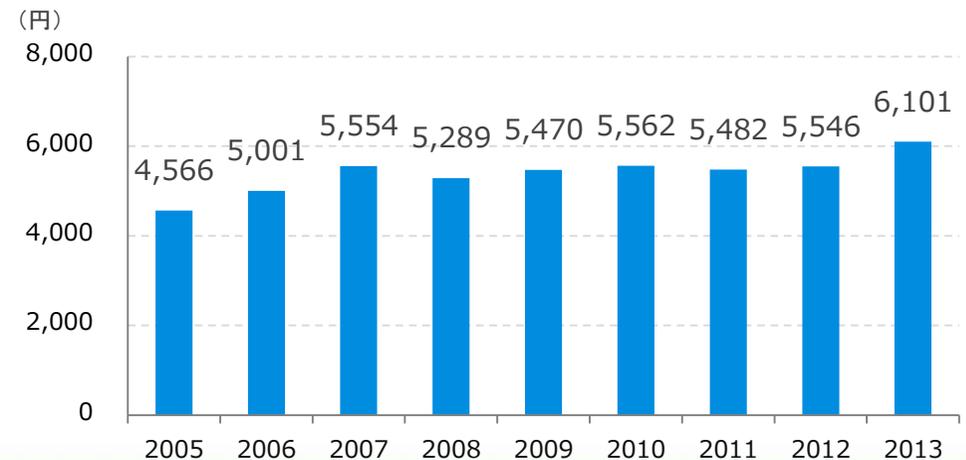
犬・猫の平均寿命



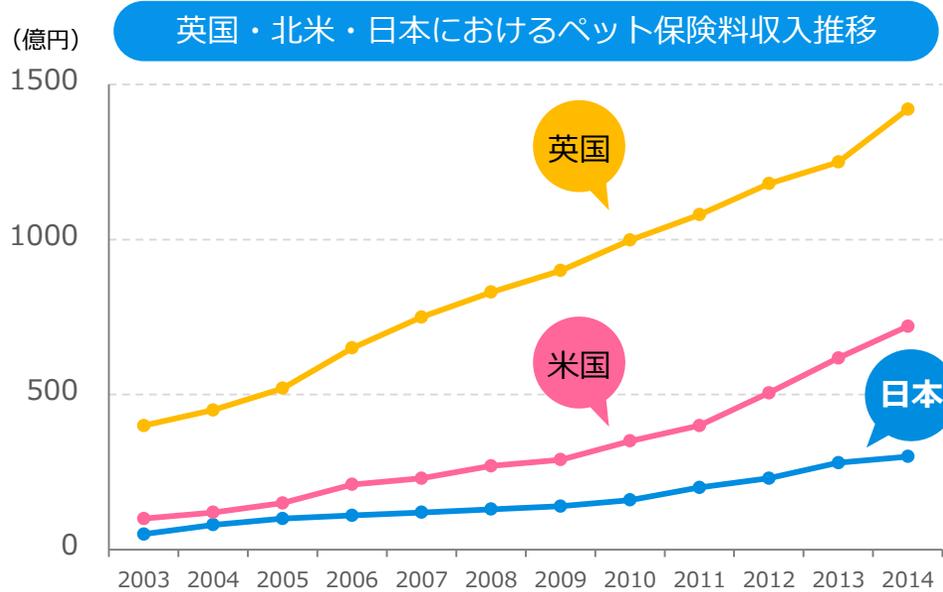
生活に喜びを与えるもの 猫飼育者



1世帯当たりの動物病院代の年間支出額 (2人以上の世帯)



- 欧米に比べ日本でのペット保険は発展途上であり、更なる市場拡大の余地



英国市場は2010年以降4年間、対前年比9%成長を予測

*Datamonitor 社『UKPetinsurance2011』

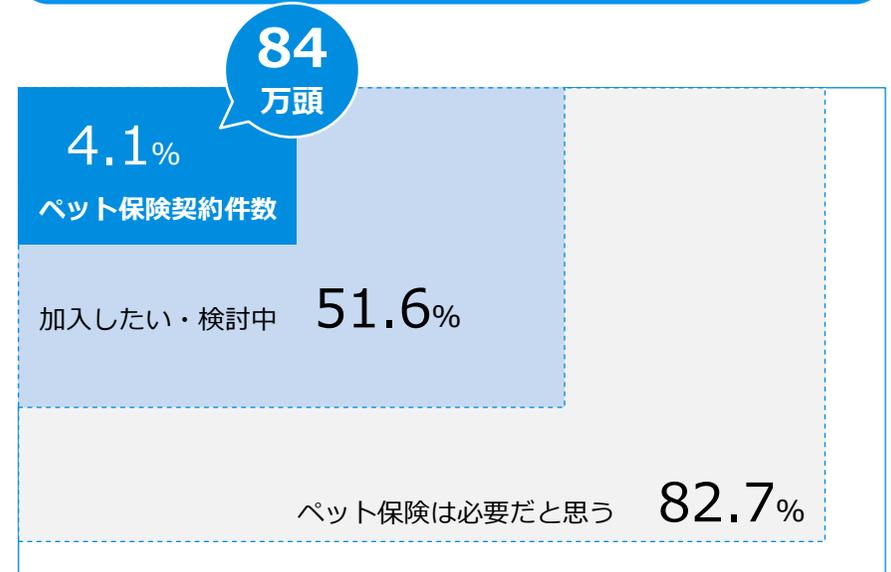
米国市場は今後5年で55%程度の成長予測

*Packaged Facts社『Pet Insurance in North America, 5th Edition』

日本市場は2013年度以降2年間、対前年比10%程度の成長を予測

*株)富士経済『2013年ペット関連市場マーケティング総覧』

ペット保険市場拡大の可能性



【出所】

国内飼育頭数：日本ペットフード協会
 ペット保険契約件数：富士経済
 ペット保険加入意向：ペット総研

国内における犬猫飼育頭数 (2013年)

2,061万頭

国内のペット保険契約数は約84万頭 (約4.1%)

「ペット保険は必要である」との認識は高いことから、ニーズは拡大傾向で推移と想定。

1 一次診療施設数の増加

- 全国的に一次診療施設数は増加傾向

2 高度医療（二次診療）ニーズの高まり

- ペットの寿命拡大による重篤な疾病の増加

3 ペット保険の成長可能性

- ペット保険の拡大により高額な医療を受けやすい環境が整う



二次診療市場の高い成長性

病院名	 JARMeC Japan Animal Referral Medical Center	獣医科大学 (関東には5つ)	単科二次診療所
所在地	神奈川県川崎市	東京都内・相模原市・藤沢市	—
診療の特徴等	365日営業 CT・MRI・放射線・PET	土日祝・夏季・年末年始休業 CT・MRI・放射線	日曜・年末年始休業
獣医師数	62 (2015年4月現在)	16~31 *	数名
診療科数	11	10~19	1
競合の状況	以下に記載	学生の教育に重点 急患への対応が難しい	総合診断の対応が難しい 大型投資が難しい

* 教員のみ、非常勤を含む

JARMeCの特徴

高度医療機器

放射線治療装置・PET・免疫治療・体外循環器等、大学以上の設備機器を揃える。

高品質なサービス

365日診療、予約の速さ（原則当日または翌日に初診を受入れ）、
簡便さ（一次診療施設担当医の電話により受入れ可能）は評価高い。

チームによる診療体制

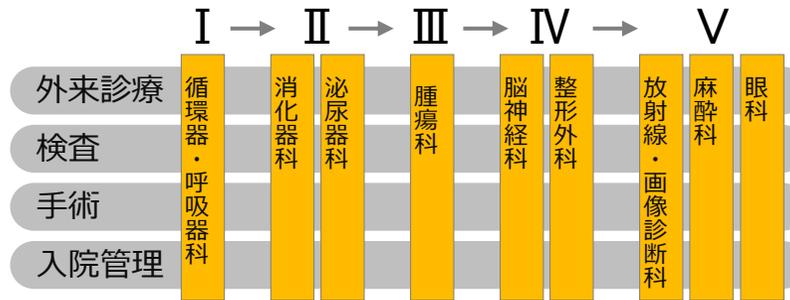
専門診療科において複数の獣医師・スタッフによる担当チームを組成。
必要な場合、複数の診療科が協力して担当（単科の病院では不可能）。
獣医師数は非常勤を含め62名と、他と比較して多い。

卒後臨床研修は、大学卒業後2年間に体系的なカリキュラムと指導体制のもとで、獣医師としての人格や価値観を育成し、患者動物を体系的に診ることができる基本的な診療能力を習得することを目的とする。

卒後臨床研修プログラム

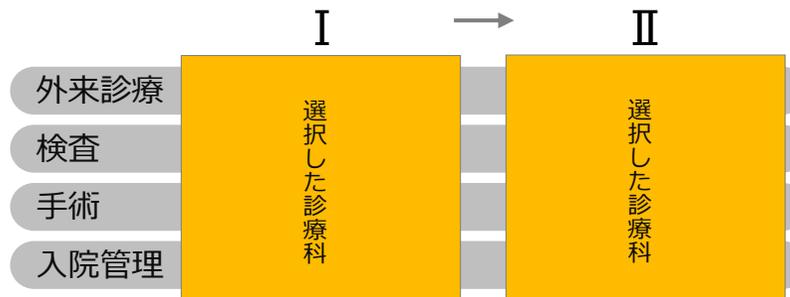
臨床研修医

1年目 各診療科ローテーション研修



業績評価

2年目 選択した専門診療科での実践研修



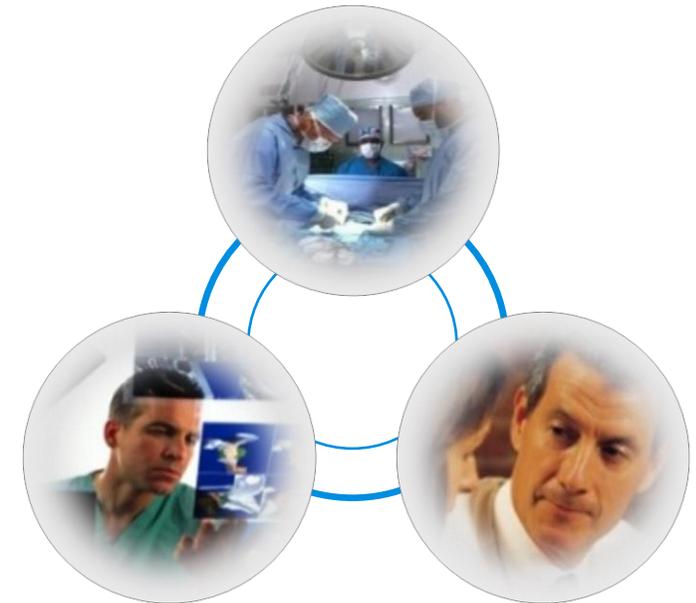
業績評価・終了認定

勤務医

3C Skills

Clinical Skill

クリニカルスキル



Conceptual Skill

コンセプチュアル
スキル

Communication Skill

コミュニケーション
スキル

平成21年3月31日

民間では初となる
「小動物臨床研修施設指定」を
農林水産省より受ける。

より専門性および公共性の高い施設を目指す。
将来、優秀な人材を育て輩出することができる。

20消安第13377号
平成21年3月31日

株式会社日本動物高度医療センター
代表取締役 金重辰雄 殿

農林水産省消費・安全局畜水産安全管理課長

「獣医師法第十六条の二第一項の規定に基づき農林水産大臣の指定する
診療施設を指定する件の一部を改正する件」について

このことについて、先般、貴殿から小動物臨床研修診療施設（単独型臨床研修施設）の指定申請がありました日本動物高度医療センター（神奈川県川崎市）は、本日をもって獣医師法（昭和24年法律第186号）第16条の2第1項の規定に基づく農林水産大臣の指定する診療施設として指定され、これに伴い、別紙のとおり告示が改正されましたのでお知らせします。

なお、「臨床研修診療施設の指定について」（平成4年9月21日付け4畜A第2264号農林水産省畜産局長通知）の記の2（4）のとおり、診療施設の廃止等により臨床研修を実施できなくなった場合（当該施設の整備内容の変更により、小動物臨床研修診療施設指定基準を満たさなくなった場合又はそのおそれがある場合を含む。）並びに当該施設の名称及び住所に変更があった場合は、速やかに農林水産大臣にその旨を報告するよう、お願いいたします。

拠点拡大

現在

川崎本院・名古屋分院



全国各地に積極的に施設の展開を推進。

営業強化

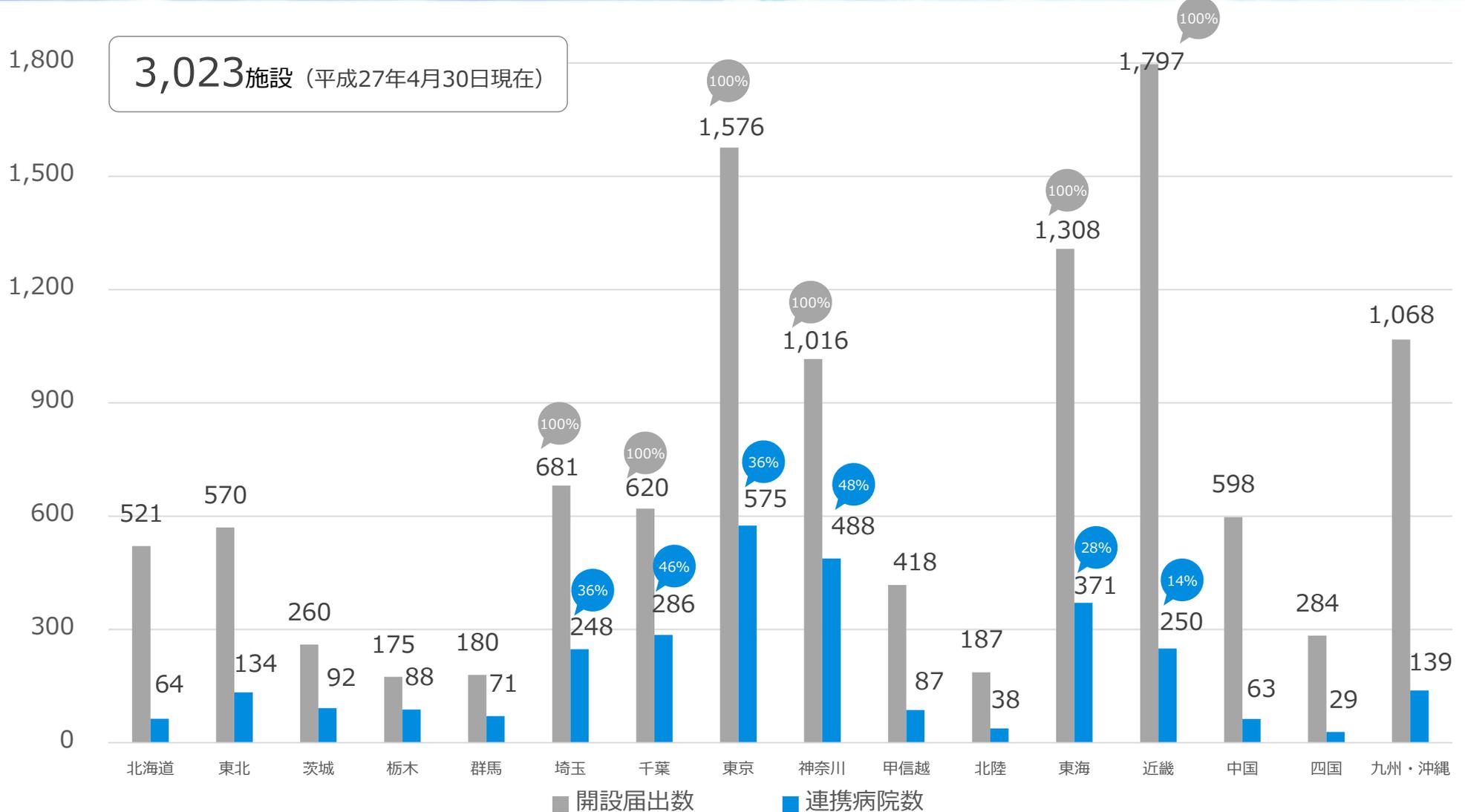
提携病院訪問で、セミナー開催、講師派遣などの対外活動を活発化、紹介数の増加に繋げる。

IPOにより

知名度向上、優秀な人材の確保。

上場による資金調達手段の多様化で拠点拡大を推進。

地域別連携病院数



出所：地域別の開設届出数は農林水産省より、2014年12月末時点の小動物診療施設の軒数。
 連携病院数は2015年4月末時点の軒数。

ご留意事項

- 本資料は、株式会社日本動物高度医療センターの事業及び業界動向についての株式会社日本動物高度医療センターによる現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた 将来の展望についても言及しています。
- これらの将来の展望に関する表明はさまざまなリスクや不確実性がつきまとっています。
- 既に知られたもしくははいまだ知られていないリスク、不確かさその他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。
- 株式会社日本動物高度医療センターは将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なるか、さらに悪いこともありえます。
- 本資料における将来の展望に関する表明は、2015年5月29日現在において利用可能な情報に基づいて、株式会社日本動物高度医療センターにより2015年5月29日現在においてなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。